

達成度：H27.3.31の自己評価

- 5 目標を完全に達成した。
- 4 目標を概ね達成した。
- 3 目標を一部達成した。
- 2 目標をほとんど達成できなかった。
- 1 目標をまったく達成できなかった。

住民協働課の目標（平成26年度）自己評価書

住民協働課長 岡野 義広

個別事業とその目標	達成度	目標達成の効果又は達成できなかった理由等
<p>1 住民活動団体の支援</p> <p>地域の活性化や課題等に取り組むための、住民団体等の自由で自発的な公益活動に対する住民提案型の住民公益活動補助金の交付や、井戸端（酒々井町交流サロン）・ミーティングルームなど活動拠点の支援により住民活動団体の活性化を図るとともに、住民活動団体交流会を通じてその活動状況を広め、団体どうしの連携強化を図ります。</p> <p>また、住民活動団体のNPO化に向けた支援を強化します。</p>	4	<ul style="list-style-type: none"> ・住民公益活動補助金を5団体へ交付しました。 ・交流サロン「井戸端」の公益性のある団体活動が定着してきました。 ・住民活動団体交流会を開催し、29名、18団体の参加がありました。 ・「第2回輝く創年とコミュニティ・フォーラム」を開催し、分科会では、町内外の先進事例を学び、質疑応答等が交わされ、まちづくり意識の向上や、他市町村との住民交流も図られました。また、基調講演、シンポジウムでは、様々な提言をいただき今後の構想や活動へのヒントとなりました。 ・生涯学習課と「盛年式」を開催し、住民活動団体の紹介等を行い、参加者へ住民活動への参加を呼びかけました。 ・「学びとまちづくりフォーラムin佐野」に参加し（住民活動団体から5名）、他市の取り組みを学ぶとともに交流を深め、町のPRや団体同士の連携を図ることができました。 ・新たにNPO法人を取得し、町の住民公益活動補助金を活用して活動する住民活動団体が発足しました。
<p>2 住みよい地域づくりの推進</p> <p>もっとも身近な住民組織の自治会等と行政は、地域住民の住みよい環境をつくるという目的を共有しており、住民と行政との協働による地域づくりを一層推進していくため、自治会等の運営について支援します。</p>	4	<ul style="list-style-type: none"> ・各地域に地域担当員を配置し、住民と行政の緊密な関係が築けました。 ・各自治会に自治振興助成金を交付しました。（36団体）

<p>また、地域担当員が自治会等との連携が図れるよう支援します。</p> <p>3 協働意識の普及と啓発</p> <p>公共や公益を担い支えるのは行政だけではなく、住民等との協働のうえに成り立つという意識を持ち、協働のまちづくりへの理解を深めるための講演会や研修会を実施します。</p> <p>また、住民と行政の協働活動として、公園等愛護活動推進事業や資材等支給事業を推進します。</p> <p>4 高齢者・団塊世代の生きがい就業支援</p> <p>高齢者や団塊の世代の社会参加と生きがい就労を目的とした「酒々井町シルバー人材センター」の運営を支援します。</p> <p>5 男女共同参画社会形成の促進</p> <p>男女共同参画社会形成についての理解を深めるため、県から委嘱される地域推進員と協力して啓発事業や情報提供を行い、男女共同参画社会形成への意識を高めていきます。</p> <p>6 地区集会所等への補助</p> <p>各地区の集会所等に対して管理費、修繕費、増改築費、建設費等について助成します。</p>	<p>・行政連絡員を各地域（39地区）で委嘱し、自治会と行政のパイプ役として活動していただきました。</p> <p>4</p> <p>・協働のまちづくりを推進するため、講師（聖徳大学名誉教授 福留強氏、順天堂大学スポーツ健康科学部 准教授 松山毅氏、特定非営利活動法人 日本NPOセンター代表理事 早瀬昇氏）による協働のまちづくり研修会を3回開催しました。</p> <p>・住民と行政の協働活動として、①地域の公園等の環境美化を目的とした公園等愛護活動を実施、公園数19か所、12団体の協力を得られました。</p> <p>・町が資材及び機材等を支給し、住民自らが施行する資材支給事業により、舗装整備等6か所の環境改善が図られました。</p> <p>5</p> <p>・補助金として140万円を交付しました。</p> <p>4</p> <p>・千葉県男女共同参画地域推進員北総地域セミナーへの参加運営協力をしました。</p> <p>5</p> <p>・各地区集会所に対して管理費補助金を交付しました。（29施設）</p> <p>・柏木青年館、馬橋青年館、中川青年館、上郷自治会館、ふじき野会館、猿楽場青年館（計6か所）に修繕補助金を交付しました。</p>
--	--

<p>7 チャレンジ目標</p> <p>① 協働のまちづくりのあり方の指針となる「協働のまちづくり指針」を検討します。</p> <p>② 酒々井ブランド事業を、町商工会や郷土を愛する団体と協働し展開します。また、国の雇用創出事業を導入して、起業支援型の特産品創出活用推進協働事業を町委託事業として実施します。</p> <p>③ 資材支給事業について、昨年からの協議のあった自治会・団体などと協働し必要な資材・機材の提供を行います。</p> <p>④ 里山林の放置竹林などの環境問題解決を目的に破碎機材を運用し、郷土愛護団体と協働し環境改善を図ります。</p> <p>⑤ 大鷲青年館の老朽化が進んでいることから、地元自治会と協働し改築を進めます。</p>	<p>4</p> <p>4</p> <p>4</p> <p>4</p> <p>5</p>	<p>・協働のまちづくりを推進するため、講師（聖徳大学名誉教授 福留強氏、順天堂大学スポーツ健康科学部 准教授 松山毅氏、特定非営利活動法人 日本NPOセンター代表理事 早瀬昇氏）による協働のまちづくり研修会を3回開催しました。</p> <p>・商工会、郷土愛護団体、農業団体が「ブランド創出」という目標に協働で取り組みました。酒々井アウトレットモール、駅などで、町の商工業や飲食、観光、特産品などの情報を広く紹介するタウン情報と町推奨品ガイドリニューアルパンフレット（3万部作成）を配布、町イチ村イチ全国物産展に出店するなど町ブランド商品の周知を図りました。また、国の雇用創出事業を導入し町委託事業として、町の特産として栽培した農産品を材料として加工品の開発研究を行いました。</p> <p>・町が資材及び機材等を支給し、住民自らが施行する資材支給事業は、平成25年の大雨で崩落した水路（延長300m）の護岸修復（昨年からの継続）や、小排水路の整備、用排水路の老朽化等による関連個所の補修・修繕、団地内のU字溝整備と舗装整備等を行い、各地域とも本事業の導入により格段の環境改善と併せて地域連帯感の向上に繋がりました。</p> <p>町内の荒廃した山林や竹林の保全を図るため、樹木粉碎機（直径18cmまで粉碎可能）を活用し、環境保全団体や里山愛護団体と協働し環境保全に取り組みました。</p> <p>大鷲の青年館の建替えについて、地元自治会と協議をした結果、平成26年度に建替えが実施されることになり、予算措置をし、補助金を</p>
---	--	--

<p>⑥自治会活動の円滑な運営に参考となるマニュアルを作成します。</p> <p>⑦荒廃が進む農地等（幹線町道沿線）の景観形成と防犯対策等を兼ねモデル地区を設定し環境保全活動を推進します。</p>	<p>3</p> <p>4</p>	<p>交付しました。</p> <p>自治会活動運営マニュアル作成に向けて、各種資料等の収集を行い、準備を進めました。</p> <p>農地の荒廃により、周辺で暮らす住民や通学路等として利用する子ども達に支障をきたす地域の環境を、シルバー人材センターと町が協働で景観作物を栽培することにより、改善を図りました。</p>
--	-------------------	---